

## 播磨国上郡村大門屋佐藤家文書 (1) 概要

- 1: 文書群番号 087001
- 2: 文書群名 播磨国上郡村大門屋佐藤家文書 (1)
- 3: 出所 播磨国上郡村大門屋佐藤家
- 4: 家業・役職等 古手売買、廻船問屋、上郡銀札掛屋、上郡村大庄屋格
- 5: 地名 播磨国赤穂郡上郡村／兵庫県赤穂郡上郡村／赤穂郡上郡町
- 6: 行政区分 尼崎藩領／兵庫県赤穂郡
- 7: 歴史  
明和6年(1769) 尼崎藩では酒造業などで繁栄する灘五郷や兵庫津・西宮など西摂沿海地域の村・町が幕府に収公され、代わりに播磨国内の多可・宍粟・赤穂郡内に飛び地領71か村が与えられた。尼崎藩は西播磨の宍粟・赤穂郡62か村を支配するため上郡村に陣屋を設置し、郡代ほかの藩役人を派遣した。上郡村は赤穂郡北半地域の中央部にあつて赤穂・坂越への舟運が盛んな千種川に接し、山陽道・因幡街道にも近い在郷町であつた。  
大門屋佐藤家は播磨国揖西郡千本村出身の上郡村在住商人である。大門屋は坂越湊を拠点に早速丸など千石積み廻船を運用し、江戸への姫路藩等御蔵米廻漕のほか、秋田・能登・広島・大坂・堺など日本海・瀬戸内・大阪湾沿岸各地への赤穂塩買い積み輸送・販売、秋田米・大豆・小豆などの購入・販売を一時期行っている。また、赤穂郡村々への金融活動も活発に行っていた。
- 8: 伝来 昭和62年、古書籍商より史料館が購入。
- 9: 史料入手先 -
- 10: 点数 4点(目録件数1)
- 11: 年代 万治元年(1658)～万延元年(1860)
- 12: 構造と内容  
目録番号1-1: 頼朝に攻め殺された平泉の藤原泰衡から万治元年(1658) 因幡国鳥取より千本村字大門の地に居を移した佐藤正家、その嫡男佐藤正朝までの当主名を記す。1-2: 佐藤正家より10代目の要輔正次が文化12年(1815) 上郡村へ分家するまでを記録。1-3: 藤原泰衡から佐藤忠信までの略系図。1-4: 佐藤要輔正次(寛政2年[1790] 生まれ弘化2年[1845] 3月隠居、要左衛門と改名)、正次嫡男萬吉(文政5年[1822] 生、弘化2年要輔正衡と改名)、正次次男政吉(要大夫と改名)の事績を詳細に記す。要大夫は分家料20貫目を投じて千石船廻船に加入、また父要左衛門も10貫目を追加したが不幸にも廻船がごとごとく破船し、要大夫は安政6年[1859] 8月からしばらく行方不明になってしまったこと、要輔正衡が木綿専売の掛屋として銀札発行などへ貢献したことにより二字帯刀永代御免、大庄屋格など種々の栄典を受けたことなど記す。  
要大夫は銀札発行にも貢献したが、廻船投資の失敗で失踪して世間への面目を失ったとも記されている。正次は和算に秀でていたようで19歳の時(文化6年)には千本村八幡宮へ、万延元年[1860]には上郡村天満宮に算額を奉納している。
- 13: 関連史料 播磨国上郡村大門屋佐藤家文書(2)、播磨国上郡村尼崎藩交易役所関係文書、上郡町役場所蔵大門屋文書
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 中村光夫